

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等：国際交流センター

事業担当者の職・氏名： 松岡知津子

内線電話番号： 9098

電子メール： chizkom@cie.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

海外フィールド研修2023

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

4. 事業の取組結果

(1) 事業概要 (簡潔に事業全体の概要がわかるように記述してください)

教養教育科目「海外フィールド研修(2単位)」では、前半8コマを座学による講義及び演習、後半8コマを現地(ベトナム)でのフィールド研修としている。

令和5年度は、三重大学生13名が引率教員2名とともに協定大学であるホーチミン市師範大学を訪問し、三重大学生とホーチミン市師範大学生が協働してフィールドテーマに取り組む「三重大学フィールドスタディ」を実施した。

(2) 事業の背景・これまでの実績

これまでベトナムフィールドスタディとして10年以上実施してきた。コロナ禍においては、オンラインでのフィールドスタディを実施するなど、ホーチミン市師範大学との交流を続けてきている。2022年度からは、JASSO奨学金を獲得することができ、2022年度は15名が、2023年度は11名が受給することができた。

(3) 事業実施結果

本事業は以下のような日程で行われた。

<海外フィールドスタディ日程>

1日目	午前:中部国際空港→タンソンニャット空港 午後:オリエンテーション
2日目	午前: JAPAN フェスティバル見学
3日目	午前:開講式、フィールド調査 午後:日本語・ベトナム語クラス
4日目	午前:障がい者施設訪問 午後:フィールド調査
5日目	午前:ホーチミン市内中学校訪問 午後:フィールド調査
6日目	午前:フィールド調査 午後:フィールド調査
7日目	午前:発表会準備 午後:成果発表会、修了式
8日目	午前・午後:市内見学
9日目	午前:戦争証跡博物館、統一会堂訪問 午後:タンソンニャット空港へ
10日目	午前:タンソンニャット空港→中部国際空港、解散

学生は、「食文化」「消費文化」「教育」「娯楽」の4グループに分かれてベトナム人学生と協働して調査を行ったり、「津・大学生活」「伊賀」「伊勢」「鈴鹿」について紹介したりした。そのほか、日本語のオノマトペやことわざなどについても紹介するなどして、有意義な交流を行った。参加学生からは「フィールド調査そのものもよかったが、その過程を通して交流したことが勉強になり楽しかった」や「三重大学生との調査を通して、調査の仕方学ぶことができた。大変なこともあったが、とても勉強になった。」といった感想が寄せられた。



最終発表にむけた準備

(4) 事業の意義

両大学の学生が協働して課題に取り組むことにより、お互いの考え方の違いや文化の違いを体験し、共有しあうことで相互理解を図る。また、本事業への参加により、異文化理解が促進され、海外留学等への動機を高めることにつながる。

(5) 事業の発展性

今後も、教養教育科目「海外フィールド研修」として継続して本事業を行っていく。これまではベトナムのみで行ってきたが、今後は韓国の協定大学とも交流を行っていききたい。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

・学生の海外留学への意欲を維持するため、きめ細やかな留学相談を行うほか、オンラインによる海外機関実施の短期研修や国際交流イベント等の情報を積極的に提供する。また、交換留学を希望しながら入国制限により渡日できない協定大学学生を対象にオンラインによる日本語教育プログラム等を提供し日本への留学の魅力等を発信する。複数学位や接続学位プログラム等の国際共同教育プログラムや本学独自の「三重大学外国人留学生特待生（入学料及び授業料免除型）制度」の第3期の取組及び成果を総括し、第4期中期目標・計画に反映させる。

(7) その他

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

三重大学では、これまで10年以上にわたり、教員引率の下、協定大学であるベトナムのホーチミン市師範大学に学生を派遣し現地の学生と交流を行ってきた。本プログラムの目的は、「協定大学であるホーチミン市師範大学での授業や学生交流、フィールドスタディの経験を通して、グローバルな視点や国際感覚を持ちながら主体的に行動し、参加メンバーと協力しながら活動を進め、また異文化にあって積極的にコミュニケーションを図ろうとするグローバル人材に求められる能力・資質を育成する」であり、特に全ての活動がホーチミン市師範大学の学生とともに国際共修を特徴としてきた。2022年度からは、JASSO奨学金を獲得することができ、2022年度は15名が、2023年度は11名が受給することができた。

表1 海外フィールド研修日程

＜海外フィールド研修日程＞

1日目	午前：中部国際空港→タンソンニャット空港 午後：オリエンテーション
2日目	午前：JAPAN フェスティバル見学
3日目	午前：開講式、フィールド調査 午後：日本語・ベトナム語クラス
4日目	午前：障がい者施設訪問 午後：フィールド調査
5日目	午前：ホーチミン市市内中学校訪問 午後：フィールド調査
6日目	午前：フィールド調査 午後：フィールド調査
7日目	午前：発表会準備 午後：成果発表会、修了式
8日目	午前・午後：市内見学
9日目	午前：戦争証跡博物館、統一会堂訪問 午後：タンソンニャット空港へ
10日目	午前：タンソンニャット空港→中部国際空港、解散

学生は、「食文化」「消費文化」「教育」「娯楽」の4グループに分かれてベトナム人学生と協働して調査を行ったり、「津・大学生活」「伊賀」「伊勢」「鈴鹿」について紹介したりした。そのほか、日本語のオノマトペやことわざなどについても紹介するなどして、有意義な交流を行った。参加学生からは「フィールド調査そのものもよかったが、その過程を通して交流したことが勉強になり楽しかった」や「三重大学生との調査を通して、調査の仕方も学ぶことができた。大変なこともあったが、とても勉強になった。」といった感想が寄せられた。



最終発表にむけた準備

令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

For more than 10 years, Mie University has sent students to Ho Chi Minh City University of Education (HCMUE) in Vietnam, which is a partner university, to interact with the students. The purpose of this program is to "act independently with a global perspective and international sense through classes, student exchanges, field studies, and homestay experiences at our partner university, HCMUE, and to cooperate with participating members. While promoting activities, developing the abilities and qualities required for global human resources who are willing to promote activities and actively communicate in different cultures."

Program Schedule

Day1	AM:NGO Airport → SGN Airport PM: Orientation
Day2	Visit to Japan Festival
Day3	AM :Opening ceremony, Field Research PM: Introduction of Vietnamese and Japanese culture
Day4	AM: Visit to Facilities for Children with disabilities PM: Field research
Day5	AM: Visit to a junior high school PM: Field research
Day6	AM: Field research PM: Field research
Day7	AM: Preparation for the final presentation PM: Final presentation and closing ceremony
Day8	City tour
Day9	Visit to the War Remnants Museum and Independence Palace
Day10	AM: SGN Airport → NGO Airport

There were positive reactions from students such as "The field research itself was of course good, but it was more impressive while interacting with students through the process.", "It was not easy to conduct the research in Japanese. Although I was able to learn many things."



Preparation for the final presentation